

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会

全体会議録（案）

- 1 開催日時 令和3年3月3日 午前10時から正午
- 2 開催場所 和合せいれいの里 3号館 2階 研修室1
- 3 出席状況
- | | |
|-----|--|
| 委員 | NPO 法人地域生活応援団あくしす ウィズ蜷塚（Zoom 参加） ワークセンターふたば 在宅支援センターぱびるす 地域包括支援センター和合 浜松市障害者相談員 浜松市中区民生・児童委員協議会 浜松市リハビリテーション病院（Zoom 参加） 浜松市社会福祉協議会浜松地区センター 相談支援事業所くすのき 浜松市教育委員会指導課（SSW）：欠席 |
| 事務局 | 浜松市中障がい者相談支援センター 浜松市中区社会福祉課 |
| その他 | 浜松市障がい者基幹相談支援センター |
- 4 傍聴者 なし（コロナ禍のため不可とした）
- 5 議事内容
- 1 浜松市障がい者自立支援協議会報告
 - 2 浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会報告
 - 3 意見交換
 - 4 その他
- 6 会議録作成者 浜松市中区社会福祉課障害福祉第二グループ 飯塚
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
- 録音の有無 有・

8 会議記録

1 開 会 司会 中障がい者相談支援センター

2 あいさつ 中区社会福祉課長

3 議 事

(1) 浜松市障がい者自立支援協議会報告

資料1-①及び資料1-②に基づき報告

令和2年度第2回浜松市障がい者自立支援協議会全体会について報告

質疑 なし

(2) 浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会報告

資料2に基づき報告（別紙参照）

質疑・意見

- ・ ネットワーク会議では意見交換ができる時間が取ればよかった。
- ・ 検討する地域課題について、当事者の立場からすると支援者が困っている課題だけではなく、当事者の視点も取り入れてほしい。
- ・ 地域課題を全体で話し合える機会を作ってほしい。

(3) 意見交換

新型コロナウイルスの対応について（事務局より）

- ・ 前回の全体会で当事者や家族の不安が強いとのことで具体的な方針等が決められているのか確認したが、基本的にはケースバイケースで対応しているため、この場合はこうなるということは示すことが難しい状況であることについて報告した。情報もなかなか得られないため必要な情報については共有できるようにしたい。

意見

- ・ 感染者が出た地域の情報もあまり伝わってこないため不安は強い。
- ・ 重症心身障害児者とその家族の不安はかなり大きい。

その他意見交換

- ・ 高齢者部門との連携を深めていくことが重要。次年度以降地域包括支援センターが社会資源の一覧を作成していく予定。そのような取り組みに障がい分野も連携しながら参加することでより有益なものが作れるのではないかと。
- ・ 地域の自治会や民生委員と連携していく中で、支援者が地域の人々とながっていくことが重要であると感じる。
- ・ 地域包括支援センターもまだまだ地域の認知度が十分であるとは言えない。障がい分野でも知ってもらう活動は重要である。
- ・ 介護保険分野では BCP 計画の策定が課されるようになる。事業を継続していくためには一事業所だけではなく、多くの機関とつながっていくことが重要である。

- 中区には15の地区民生児童委員協議会があり、その中に障害福祉部会がある。今年度は中障がい者相談支援センターに協力してもらい研修会を行った。
- 民生委員の活動の中でもどこにどのような社会資源があるのか、どのようにつないでいけばいいのかわかるように社会資源をリストアップしている。
- 今回のコロナ禍で、障がい児・者を支援する事業所は難しい対応をしてきたと感じる。どのように受け入れ態勢を作るのか、いろいろな情報が飛び交う中で正しい情報を得て適切な対応をすることが難しかった。
- 報酬上の代替手段（訪問や電話・オンライン対応など）は示されたが、具体的にどうすればいいのかわからないことも多かった。
- コロナ禍の中、事業所間で話し合う場がなかなか持つことができないことで、事業所内でも閉塞感が強くなったと感じた。
- 強度行動障害のある方の受け入れる場がかなり限られていることは課題。支援者や事業所間のネットワーク作りは必要。
- コロナ禍の中で対面での面接等がなかなかできないことがあった。実際に会えないことで虐待リスクのあるケースの実態が見えにくくなるため、できる限り対面で会えるようにした。
- コロナウィルスワクチン接種について高齢者は先行するとのことだったが、障がい者にも適切な情報提供をしていく必要がある。
- 訪問系のサービスも横のつながりを作ることでヘルパー等の支援者の有効活用ができるのではないか。
- 啓発活動の中で他の社会資源と交流したが、支援者だけでなく利用者にとってもよい経験になった。少しでも繋がっていくことでお互いを知るきっかけや機会を作ることは重要である。
- 社会福祉協議会では手をつなぐ育成会のキャラバン隊の協力を得て障がい者のことを知ってもらう活動を行った。地域の方は障がいのある方にどう接していいかわからない人が多く、知ってもらうことをきっかけに地域の中で関りが生まれるのではないか。
- 医療機関はコロナの影響を強く受けた一年だった。コロナについては正しい情報と適切な対応が重要である。
- 7月以降、福祉交流センターの大規模改修が始まり、福祉交流センターを活用した催しや行事に大きな制限が出てくる。代替手段が見つからないことで障がいのある方の社会参加の制限が出てしまうことは心配。
→高砂小にプレハブ建設し、貸館業務も行う予定(規模は未定)。
- 計画相談の量の確保が難しいとのことだが、セルフプラン等について市がどのように考えているのか？
- 浜松市はデジタルスマートシティ構想を進めているが、その中に障がいのある方のことも含めた検討をしているのか？障がい者や高齢者にのこ

とも含めた検討をしてほしい。

- 全体会の委員として、全体会のみでの参加だけでは連絡会が今何をやっているのかわからないことが多かった。その中で事務局会議録が送付されたことで何をしていたのか分かったことはよかった。できるだけ途中経過がわかるようにしてほしい。

4 閉 会 事務局

以上